

メータオ・クリニック支援の会（JAM） 会報メール 第54号

[2013年7月号]

メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。
JAM 会報メール第54号をお送りします。

JAM は2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ／ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へJAMの最新の活動をほぼ毎月中～下旬ごろ会報メールにて発信いたします。
今後ともどうぞよろしく願いいたします。

<目次> [ページ]

現地スタッフがNHKの番組に出演します	[2]
平成25年度 活動報告会を開催します	[2]
メソトマンスリー	[3]
国内から	
・ 表現について考える	[4]
国際保健医療協力のなかで (21)	[5]
今月の一枚	[6]
編集後記	[7]
次号の予定	[7]



現地スタッフがNHKの番組に出演します

先日、メーリングリストでご案内をいたしました
昨年より当会現地派遣員としてメータオ・クリニックで働く看護師の田畑がNHK大阪放送局の番組に取り上げていただき、放送が決定しました。

放送エリアにお住まいの方でお時間ありましたら、再放送をぜひご覧ください。

番組名は「**かんさい人物ファイル アジアに夢中**」です。

放送日時：平成25年7月28日（日）午前7:45～
（再放送 8月1日（木）午前11:05～）

国境の“優しい”看護師 タイ 田畑彩生さん
<http://www.nhk.or.jp/osaka/program/asia/>
↑予告動画もご覧いただけます。



なお、大阪放送局制作の番組のため、近畿地方でのみの放送となるようです。

平成25年度 活動報告会を開催します

平成25年度 活動報告会を下記の要領により開催いたします。
賛助会員以外の方にも公開しておりますので、お知り合いの方も是非お誘い合わせの上ご参加ください。

1. 日時

平成25年9月8日（日） 13:30～17:00（13:00 開場）

- ・ 報告会 13:30～16:00
- ・ 懇親会 16:10～17:00

2. 場所

林野会館 6階 会議室603

〒112-0012 東京都文京区大塚3丁目28番7号

<交通アクセス>



- ・地下鉄丸ノ内線「茗荷谷」駅下車徒歩7分
- ・地下鉄丸ノ内線「新大塚」駅下車徒歩10分
- ・都バス「千石三丁目」下車徒歩1分
- ・山手線「大塚」駅下車（南口）徒歩20分
- ・有楽町線「護国寺」駅（3番出口）下車徒歩12分
- ・地下鉄三田線「千石」駅（A4出口）下車徒歩12分

<地図> <http://rinyakaikan.or.jp/access/index.html>

3. 内容

*年次活動報告 事業・会計報告

*現地活動報告

①「タイ社会の中で -ビルマ移民学校、平和と友好の音楽交流会-」

当会は学校保健の活動に取り組んでいます。

今回は、現地スタッフの田畑看護師より学校保健部門での現地活動、移民学校の現状などについてご報告します。

②「変わり行くビルマと国境の人々」

現在、現地派遣員としてメータオ・クリニックで活動している前川由佳看護師が2年間にわたる活動をご報告するとともに、ミャンマー／ビルマの民主化から現在に至るまでのタイ・ミャンマー／ビルマ国境とメータオ・クリニックの様子をお伝えします。

4. 定員 先着60名

5. 参加費 500円（資料代、懇親会費含む）

6. 申込み

参加ご希望の方は、

(1)氏名 (2)住所 (3)所属 (4)電話番号 (5)パソコンメールからの連絡がつくメールアドレス (6)賛助会員の有無 をご記入のうえ、前日までにメールでご連絡ください。メールタイトルは「活動報告会申込み」とご記入をお願いいたします。

申し込み、問い合わせ先: support@japanmaetao.org 担当: 淵上

皆様のご参加をお待ちしております。

メソトマンスリー



【メソト=前川 由佳、田畑 彩生】

移民学校への訪問診療



移民学校への訪問診療、ビタミンの配布事業始まりました。今回は14校、合計で30校以上の移民学校にて訪問診療を行います。

今日は、クイッカロウ校を訪問。デング疑いの学生は少なく、下肢の皮膚感染症のある学生さんが目立ちました。そしてジフテリア発生が認められた地域周辺では、ジフテリアの予防接種を行っています。移民学校の学生さんの兄弟が2名、ジフテリアに感染してしまいました。そのご家庭には、11人の兄弟姉妹と一緒に生活しているとのことでした。



(訪問診療の様子)



(ギョウ虫駆除薬とビタミンA、頑張って飲み込めるかな?)

国内から

表現について考える

【東京＝高澤 彩】

先日写真集「100人の母たち」写真展と、その写真家である亀山ののこさんのトークイベントに行ってきました。そこで感じたことを皆さんと共有させて頂きたいと思います。

亀山さんは2011年3月の福島原発事故後、原発が多くの犠牲の上に成り立っていた仕組みを知り、反対の姿勢を示すために日本各地で母と子どものポートレイトを取り始めました。それぞれの母たちは子どもを守るため、自らのポートレイトと共に実名で想いを綴り、「原発はいりません」という意思を表明。それが写真集という形になりました。

多くの人と共有したい、多くの人に訴えたい。



深刻な問題であればあるほど、厳しく、固い表現になることが多い気がするのですが、まず「100人の母たち」は中身を知らなくても、ふと「何の本だろう？何の写真かな？」と手に取ってしまう様な、そんな雰囲気を持っています。本を開けば、写真はとてもきれいで笑顔ばかり。被写体と創り上げられた写真の空気もやわらかく温かい。ただ、綴られた想いはシンプルでありながら切実。怒り、不安、疑問、そして希望の言葉。

「脱原発のメッセージなので、本当は厳しい表情を取る予定だったんです。でも子どもと一緒にお母さんを取ると、自然と優しいまなざしになるんです。」と亀山さん。私自身、今まで表現方法なんてまともに考えたことがなかったような気がしますが、心にすっと入ってくる、この不思議で素敵な表現は、「私は自分の意識をどんな形で、日常生活や仕事で表現しているかな？」と考えるきっかけになりました。

亀山さんの作品は、私自身の表現することへの意識に加え、子どもたちとの接し方への意識も変えました。私たちは親から、そのまた親たちから引き継いだ社会を生きながら、次は子どもたち、そのまた子どもたちが生きる社会へと繋いで行く。だから社会の大人たちみんなが子どもたちの親。社会全体のことを考えれば、うちの子、よその子とかではなくで、みんな大事な子どもたち。そういう気持ちで出会う子どもたちと接したいな、と。

社会への問題意識を表現することは簡単な様で、簡単じゃない。私自身、あまり得意でない気がします。物事には経緯があって、様々な側面を持つ。良いも悪いもない。物事や自分の意見は時間が経てば変わっていくし、何事も全て理解することはできない。だから、あえて形にしたり、結論付けたりしたくないな、という思いの方が大きかったのです。ですが今は、意識を社会に表現することは大切で、自分らしい表現方法と出逢えて、周りとの繋がって行けることは幸せだな、と改めて感じています。



国際保健医療協力のなかで (21)

【東京＝小林潤】



沖縄から成田空港行きのLCC（ローコストエアライン）に乗っている。1万円を切る安さだ。せつかくとれた研究費なので無駄は省きたいと思っている。多くの観光客・ビジネスマンがいるメインターミナルから無料シャトルバスで移動した。貨物ターミナルを使った殺風景なターミナルでチェックインする。案の定遅延した。何のアナウンスもしばらくない。少しいらしたがLCCだからと我慢していた。搭乗時間をだいぶ過ぎて、搭乗がしばらくしたら始まるとの説明。アナウンスが日本語のためわからないアメリカ人はゲートにざわざわと並ぶ。しかしまだだ。そのうち突然搭乗が始まった。「後方座席から」といっているがま



た日本語なので、われ先に来るアメリカ人が押し返されている。ゲートをくぐった。なんと歩いて飛行機まで移動らしい。ここでもしばらく待たされた。やっと飛行機まで移動となった。人の行列からはなたれ、ターミナルビルをでたら、その景色はなんとも素晴らしい夕焼けだった。赤い機体が輝いている。美しい！エチオピアとラオスの地方都市の空港を思い出した。少し得した気がした。

4月から教授会たるものに出るようになった。話は聞いていたが、あまり面白い会議ではない。なぜ、事務方は端に並んですわっていて、意見が言えないのだろうか。などなど、いろいろ思うことがあるが、新任教授なので聞くこと、慣れることを優先させている。メータオの現場から不協和音が聞こえてくる。人間関係や会議等でうまくいかないことがあるようだ。心配になる。綺麗なものをみているだろうか。

最近、ダイエットもかねて徒歩通勤を始めた。行きは8時ともなると沖縄はかなり暑い、汗が噴き出してくる。しかしキャンパスのなかにあるうっそう草が茂っている沼を超える橋を渡るとなんともいい気分になる。帰りは夕刻から夜で、涼しい風が感じられる。たまには綺麗な夕焼けや雨上がりの虹がみれたりする。今日の夕食は何をつくらうかと考えたり、足取りも軽い。あるとき、メータオのゲストハウスやレストラン棟がある丘からみる景色を思い出した。JAMの現地スタッフもたまには、あそこについて気分転換をしているだろうか。

海外でも、日本と同じ様に、またそれ以上に、ちょっとした自分を逃がしてやってほしい。実はこれが国際協力を長くやる重要なコツかもしれない。

今月の一枚

今日は、メータオ・クリニックに幸運を運ぶ象とその象使いが来ました。

子どもたちに人気者の子象さん、いつもはメータオの町中で出会います。迷い牛ならぬ、迷い象…

デングやマラリアによる受診患者数の急激な増加や土地の権利問題、火葬場の建設などたくさんの方が問題が勃発し、連日朝から晩まで会議のクリニック。

どうぞ、子象さん、良い風とたくさんの方の幸運を運んできてください。



